

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

2022年5月15日(日)

黒田禎一郎

主 題：「だれを愛しますか？」

—キリスト者の生き方—

テキスト：第一ヨハネの手紙2章15～17節

はじめに

・おはようございます！

- ・家庭という言葉がありますが、一般的には核家族 (nuclear family) のことです。核家族とは簡単に言えば、夫婦とその子どもだけからなる小家族のことです。家庭はまず男女の結婚から始まります。そして夫婦に子どもが与えられると、夫婦は親となり、親子3人の家庭 (or 4人、5人) が誕生していきます。
- ・それから親の子育てが始まります。子どもの成長は、親にとって何よりも大きな喜びでしょう。子どもが道を外すことなく、世の中で正しく成長してくれるならば、大きな喜びです。子どもが成長する過程で大切なことは、何と云っても「愛」でしょう。愛があれば、少しぐらいの苦勞も問題ではありません。愛は苦勞を覆いつつむからです。
- ・しかし、もし両親に愛が欠けるならばうまくいきません。子育てもうまくいきません。家庭に愛がないならば、それは何かがおかしいと言えるでしょう。ところが最近、そのようなおかしい家庭が増えていると言われます。愛が冷えてしまった家庭が多くなっているのです。
- ・家庭崩壊という残念な言葉がありますが、なぜそうなるのでしょうか。問題の根には深いものがあると思われまます。
- ・第一ヨハネの手紙の著者ヨハネは、神を信じる者たちは「神の家族」であると述べています。キリスト者は神の家族の兄弟姉妹です。この書簡の受け取り人は、神の家族の子どもたち (兄弟姉妹) です。ですからこの書簡は、「愛のレター」と言っても過言ではありません。
- ・そこで、ヨハネは愛の関係で結ばれる子どもたち (兄弟姉妹) に、この世にあってどのように歩むべきか注意 (命令) を書き送りました。高齢であったヨハネの立場からすれば、愛を持って、命令を出すことができる立場でした。彼は次のように言いました。

2:15 あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を

愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。

- ・ヨハネは、「世と世にあるものを愛してはいけない」と命じました。今日、私たちはこの言葉から学んでいきたいと思います。 2点

大切なポイント

1. なぜ、世を愛してはいけないか (1)

1) 同時にふたつのものを愛せない

- ・愛の性質上、二つのものを同時に愛することはできません。世の中にあるものを愛するか、父なる神を愛するかです。クリスチャンは当然、私たちが愛してくださっている父なる神を心から愛する者です。
- ・聖書は最も大切な教えとして、次のように述べています。

マルコの福音書 12 章

12:30 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

- ・愛は排他性を伴う厳しいものです。ですから二つのものを同時に愛そうとする者を、「姦淫」、「二心」の者と言います。これは神が最も忌み嫌われるものです。
- ・一時は、複数のものを同時に愛することも可能に思えるかも知れません。
マタイの福音書 6 章 しかしイエスは、それは出来ないと言われました。
6:24 だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることになります。
あなたがたは神と富とに仕えることはできません。

- ・初代教会時代、デマスという人物がいました。聖書は次のように記録しています。Ⅱテモテの手紙

4:10 デマスは今の世を愛し、私を見捨ててテサロニケに行ってしまいました。また、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマティアに行きました。

- ・今の時代も、またいつの時代も世を愛するクリスチャンはいます。
- ・私たちは有限であり、明日の命もわからない弱い存在にすぎません。聖書はこう述べています。 ヤコブの手紙 4 章
4:14 あなたがたには、明日のことは分かりません。あなたがたのいのちとは、どのようなものでしょうか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それで消えてしまう霧です。

- ・それにも関わらず、永遠である神に目を向けず、人間は世を愛するものです。

どうぞ、覚えてください。人間は2つのものを同時に愛することはできません。では「世」、「世にあるもの」とはいったい何でしょうか？

2) この世は人を欺く

2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。

①「肉の欲」

- ・肉の欲とは、生まれつきの人間の心のことで、心の向くままに生きることです。自分がしたいからする、気にいらぬからしない、という行動原理です。楽しいことには手を出しますが、辛いことはやらないということです。
- ・これは「世」の行動原則、世の価値観はそこにあります。人がみな、自分の心の向くままに行動するならば、問題が起きても不思議ではありません。
- ・パウロはこう言いました。 [エペソ人への手紙2章](#)
2:3 私たちもみな、不従順の子らの中であって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。
- ・私たちはみな、かつては肉の欲に生きるものでした。しかし、神の恵みによって、肉の欲に従う者から神に目を向ける者に変えられました。それはただ神の恵みであります。
- ・しかし神を知っていても、もし肉の欲に生きるならば、そこには神を愛する愛はありません。

②「目の欲」

- ・目の欲とは、目から入る欲のことですが、目は「肉の欲」が働く入口です。人類が墮落したのは、「目の欲」に引かれたことに始まりました。
[創世記3章](#)
3:6 そこで、女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。
- ・肉の欲、目の欲は、主に自分が持っていないものに対してですが、もう一つ別の欲もあるのです。それは「暮らし向きの自慢」です。

③「暮らし向きの自慢」

- ・暮らし向きの自慢は、自分が持っているものを誇ることです。たとえば、高級車、お城のような家、大地主、巨大な富、財産などを持つことを自慢することです。
- ・このような生き方と、神を愛する道とは両立しません。聖書は金銭に関する警告をはっきり述べています。 皆さん、どうぞ誤解しないでいただきたいのです。金銭それ自体が悪いにではありません（お金がなければ生活出来ません）。金銭は生活上大切なものであり、神を愛して使うならば、有効に用いることができます。
- ・問題は、私たちにある金銭を「愛する」心にあります。それは「あらゆる悪の根」となるからです。世間は金銭問題で、どれほど争いが起こっているのでしょうか。それは私たちの心を示しているのではありませんか。
- ・もし、金銭を愛する心を大切に温存させてしまうならば、神への愛は遠ざかり。信仰も捨ててしまうことになります。それは私たちを滅びと破滅に投げ入れてしまうことになります。

1 テモテ 6 章

6:9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑と罟と、また人を滅びと破滅に沈める、愚かで有害な多くの欲望に陥ります。

6:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは金銭を追い求めたために、信仰から迷い出て、多くの苦痛で自分を刺し貫きました。

*なぜ、この世と世にあるものを愛していけないのでしょうか。

3) この世は一時的である

- ・少し考えてください。肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、すべて一時的なものです。永遠につづくものではありません。一時的なものは、いつかは滅びるものです。しかし、人は肉の欲に引き寄せられ、一時的なものに心を奪われやすいものです。
- ・私たちは、どちらの世界を選ぶのでしょうか。やがて消えていく一時的なもの（世界）に、目と心に向けて歩むのでしょうか。あるいは永遠に変わらないもの（世界）に、目と心に向けて歩むのでしょうか。

2. なぜ、世を愛してはいけないか (2)

- ・聖書は次のように教え勧めています。
- 2:17 世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に

生き続けます。

・第一コリント 7 章

7:31 世と関わる人は関わりすぎないようにしなさい。この世の有様は過ぎ去るからです。

・マタイ 7 章

7:21 わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。

・幸いなことは、神の前で行ったわざは永遠に覚えられることです。

マタイ 10 章

10:42 まことに、あなたがたに言います。わたしの弟子だからということで、この小さい者たちの一人に一杯の冷たい水でも飲ませる人は、決して報いを失うことはありません。」

聖書はこのように、私たちの小さな行いも神に覚えられていると教えています。

・マタイ 7 章を読みますと、イエスは、神のみことばを行う者は岩の上に自分の家を建てる賢い人にたとえられました。その人は、この世のどんな嵐にも倒れることはありません。そればかりか、永遠に対する備えを確かにする人です。その人はまことに賢い生き方をする人です。

・イエスはこう教えられました。マタイの福音書 6 章

6:20 自分のために、天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。

・私たち神の家族に生きる者として、いったいどのような生き方が求められるでしょうか。だれを、何を愛しているのでしょうか。ヨハネは「世と世にあるもの」を愛してはいけないと命じました。そこには真の幸福はないからです。それよりも聖書は、天に宝を蓄えなさい、と教えています。

・いかかでしょうか。私たちはどのような生き方をするものでしょうか。

ま と め

主 題：「だれを愛しますか？」

—キリスト者の生き方—

・今朝も主は私たちにお語りくださいました。長老ヨハネは愛する神の家族の者に命じました。

2:15 あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。

- 肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、人を欺くものです。世の中、どれほど多くの人々が肉の欲から発生する問題で、心を痛めているのでしょうか。世のものは、一時的なものにすぎません。それに同時に、二つのものを愛することはできません。私たちは、これを心に覚えなければなりません。
- 最後にキリスト者の生き方として、次の聖句を覚えましょう。

マタイの福音書6章

6:20 自分のために、天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。

* God bless you !